

6月～

コロナ禍における 原油・物価高騰対策を決定 ～スピード感を持って！情勢に応じた生活支援～



コロナ禍における急激な物価高騰を受け、影響を受けるすべての市民の皆さまの生活を支援するため、1人あたり5千円分の「市民生活応援チケット」を配布しました。また、子育て世帯への支援として、小・中・特別支援学校の2・3学期分の給食費の無償化を実施しました。

注目！



物価高騰が続いていることから、さらなる支援策を実施します！
○高校生などのいる世帯に応援給付金を支給（詳細は8ページ）
○燃料、肥料、飼料などの価格高騰の影響を受けている農家などを支援（詳細は9ページ）

4月

上田桑鳩作品の寄附 をいただきました ～吉川出身、前衛書道のパイオニア～



日本経済新聞の題字を手がけたことでも知られる吉川町出身の書道家 上田桑鳩の作品約100点や愛用品などを、4月21日に孫の上田啓之さんから寄贈いただきました。10～11月には堀光美術館で「郷土の書家 上田桑鳩展」を開催しました。

2022年三木市政

10大 ニュース

昨年もコロナ禍で大変な1年ではありましたが、感染防止対策をはじめとする市民の皆さまのご協力のおかげで大型イベントが3年ぶりに復活するなど、明るい兆しが見えてきた年となりました。

改めて2022(令和4)年がどのような年だったかを、三木市政と一緒に振り返ってみましょう。



問 (市)秘書広報課 広報広聴係

10月

みっさい☆健康アプリが スタート

～ウォーキング・けんしん受診などでポイント付与～

健康づくりを行いながら、デジタル社会に慣れ親しむことができるスマートフォン用アプリを10月1日から開始しました。毎日の健康記録や健診・検診の受診などで健康ポイントを獲得でき、18歳以上の市民は、最大5,000円相当の電子マネーと交換できます。



9月

韃まつりが県登録 無形民俗文化財に登録 ～県が昨年創設の新制度で登録1号に～



鍛冶職人や金物卸商などによる信仰に起源をもち、長く継承されている韃まつりが9月1日に県登録無形民俗文化財に登録されました。令和3年に県が無形民俗文化財の登録制度を創設後、初めての登録案件となりました。

3月～

深化進む、ゴルフのまち三木 ～若手選手の飛躍の地へ～



令和3年の全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会と小学生対象のスナッグゴルフJGTOカップ全国大会の初開催に続けて、昨年は中学生の全国教育合宿を誘致。また、三木市レディースゴルフトーナメントを3年ぶりに開催しました。

3月

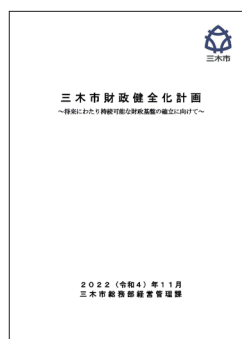
近畿経済産業局と 包括連携協定を締結 ～万博に向けてブランド戦略を推進～



経済産業省近畿経済産業局とともに市の地方創生を一層推進するため、3月17日に包括連携協定を締結しました。2025年大阪・関西万博を機に三木ブランドを世界に発信し、持続的な活力あるまちの実現につなげます。

11月

財政健全化計画を策定 ～今後の市民生活・市民サービスを守るために～



「財政が厳しいから」という視点だけでなく、各種事業の目的や必要性、効果などを検証するため、事業の総点検を実施。その結果を踏まえ、本市が財政的にまだ体力のあるうちに財政健全化に着手し、将来にわたり持続可能な財政基盤をつくるための計画を策定しました。

11月

三木金物まつりを ハーフスタイルで開催 ～3年ぶりの開催に約9万人が来場～



11月5日、6日に3年ぶりとなる三木金物まつりを開催しました。新型コロナウイルス感染症対策として通常開催と比べて半分程度での開催となりましたが、例年同様の活気にあふれた2日間となりました。

4月

新たな学校生活がスタート ～4小学校が統合した吉川小学校と 市内最大校区となった三木中学校で～



東吉川小学校と前年度に統合した吉川小学校が統合し、吉川の子どもたちが集う新しい吉川小学校が誕生。また、星陽中学校と三木中学校が統合し、市内最大の校区と生徒数になった新しい三木中学校がスタートしました。

3月・
5月

神戸電鉄三木駅 新駅舎が完成 ～再建費用は寄附、デザインは選挙～

平成30年3月に焼失した神戸電鉄三木駅下り駅舎と駅前広場が完成しました。駅舎の再建にあたり、ふるさと納税や寄附など多くの支援をいただくとともに、デザイン総選挙を実施したことで、地域住民や利用者など多くの方の思いが詰まった駅となりました。

